

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004 0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道博物館内  
電話/011 898 0456・FAX/011 898 2657

## 第54回北海道博物館大会を 開催しました。

7月10日(金)・11日(土)の2日間、札幌市で「高齢社会のなかでミュージアムにできること」をテーマとして、北海道博物館大会を開催しました。大会初日は、北海道開拓の村のビジターセンターを会場に、2日目は会場を本年4月18日にオープンした北海道博物館において実施しました。

大会初日の総会では、議長に小樽市総合博物館石川直章館長が、副議長に新ひだか町博物館敷中剛司館長が選出され、総会出席81名のもと、役員改選を含む8項目の議案が承認されました。

表彰式では、札幌市博物館活動センターから推薦のあった札幌自然史研究会様、士別市立博物館から推薦のあった士別市立博物館ボランティア友の会様、小樽市総合博物館から推薦のあった佐々木謙様の2団体1個人に、石森秀三会長から表彰状と記念品が授与されました。

特別報告では、日本博物館協会専務理事半田昌之氏から、日本博物館協会の主要活動と最近の動向についての報告と、一昨年の遠軽大会で学芸職員部会から発言のあった「雑誌記事索引採録選定基準の改定を求める運動」の日本博物館協会が取り組んだ内容と経緯の説明がありました。また、文化庁文化財部伝統文化課長神代浩氏(代理；伝統文化課アイヌ文化振興調査官内田祐一氏)から国立のアイヌ文化博物館(仮称)の基本計画と進捗状況について、文部科学省生涯学習政策局社会教育課博物館振興係長為近雄一郎氏からアイヌの人々の遺骨等の保管状況等に関する調査について報告がありました。

研究大会は一般来村者を含めて146名が参加し、北海道大学総合博物館准教授湯浅万紀子氏のコーディネートのもと、まず、基調講演として北名古屋市歴史民俗資料館長市橋芳則氏から、これまで博物館が実践してきた福祉関係部局との「博福連携」の試みについてお話いただきました。また、事例報告として、知内町郷土資料館学芸員高橋豊彦氏から町内の高齢者に向けて実践している健脳講座と回想法について、おびひろ動物園主任杉本加奈子氏から高齢者や

障がい者団体向けに進めている動物介在活動について、北海道博物館学芸員青柳かつら氏から朝日町郷土資料室などで進めた地域資源を活かした地域学習活動とその効果について、北海道医療大学准教授長谷川聡氏から博物館見学者へのさりげない配慮とたまり場としての博物館の役割についてご報告をいただきました。その後の総合討論では、福祉関係施設との連携や効果測定のある方、事業を継続していくための課題などについて意見がかわされました。

ポスター解説は、浦幌町立博物館学芸員の持田誠氏から「雑誌記事索引採録誌選定基準の博物館紀要における問題点～なにが問題で、どうすれば良いのか?～」について、平取町アイヌ文化保全対策室長の吉原秀喜氏から「アイヌ文化環境保全対策事業」について、足寄動物化石博物館学芸員の新村龍也氏から「新しいリーフレットははじめます」について解説がありました。

ミュージアムマネジメント研修会は、北海道博物館石森秀三館長を中心に、総合展示室と組織の案内を含めて、北海道博物館と地域のかかわりについて報告しました。

さらに、本大会期間中、北のミュージアム活性化実行委員会が、文化庁の地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業を受けて主催した「北海道博物館まつり」を、道内6地区の博物館とその活動を広める事を目的として開催しました。この事業内容は、11館の協力を得てワークショップを実施し、あわせて「北海道の博物館周遊マップ」を配布しました。当日の一般来館者は、314名、大会参加者を含めると391名のお客様をお迎えいたしました。

本年は試行として、ミュージアムマネジメント研修会を大会にあわせて開催させていただきました。しかも週末にかかる大会日程にするなど、会員館園のみなさまには、多大なご負担をおかけしたことと思います。一方では、博物館まつりの開催により、道内の博物館の具体的な活動について共有できたのではないかと考えてもおります。このような試みが、会員館園の皆さんにメリットが感じられるような協会運営への一助になればと、切に願うばかりです。

(北海道博物館 学芸部長/

道央地区博物館等連絡協議会 監事 舟山直治)

道東地区 NEWS

## 交流の場としての「土曜サロン」

「さて、今日はモンパルナスのお話を」。客席には十数人ほど。普段は大型モニターで小川原脩の紹介ビデオを流している映像ルームを用いて、フランス美術を中心とした講座を続けています。昨年の6月から月1~2回のペースで始めて、もう20回くらいにはなるでしょうか。

当初は美術の流れを丹念に話していましたが、最近では、地域やカフェなど特定のテーマに基づいたものも交えています。また、時には番外編として北海道の美術や旅先で出会った美術館を取り上げたり、美術関連の名作映画を解説付きで鑑賞したりと、かなり柔軟な内容になりつつあります。お客様の多くは常連さん、中には教育長をはじめ役場の方々、そして町長までも。美術の関係者も珍しくありません。テーマによっては、ニセコや小樽から駆け付けてくれる方までいます。20数人も入れば満杯になる映像ルームのモニターの横に立つと、最前列の席とは1メートルもありません。しかし、この距離感が良いのです。話の途中で質問が出たり、合いの手が入ったりと、お客様もリラックスしている様子。この場所を初めて見たとき、「サロン」

という文字が頭に浮かびました。話し手と聞き手が一体になれる空間が生まれそうだと。星の王子様ではありませんが、この場を通して、美術館とお客様との絆を生み出す、あるいは絆を強めることができたら、どんなに嬉しいことかと。もとより、この美術館にはアットホームな雰囲気があり、一人一人のお客様を大事にする仕組みが出来ていました。その一つが、ロビーの一角に設けられた休憩コーナーです。ここには、常に無料のコーヒーが用意されており、鑑賞後に立ち寄ることが流れとなっています。そして「土曜サロン」の後、自然の成り行きで、この場所は文字通りの「サロン」となるのです。美術館とサロン、さて小川原脩はどんな思いで見ているのでしょうか。



「土曜サロン〜ちょっと楽しいフランス美術〜」より

(小川原脩記念美術館 館長 柴 勤)

道南ブロック NEWS

## 木古内町郷土資料館オープン 「施設の紹介」

建物はもともと昭和62年に鶴岡小学校として新築された校舎でしたが、平成23年に閉校となり、施設の有効利用と以前より構想があった郷土資料館の開設を目指して手作りで準備を進め、今年3月にオープンしました。

基本的に内部改装などは行わず、展示台やケース等も廃品を再利用しており、ほぼ元の学校内部そのままの姿を残しているためか、卒業生にはとても好評です。

館内には教育委員会に保管されていた古民具や町内外の方々から寄贈された資料を中心に650点ほどを公開しています。

木古内町は渡島半島の南西部に位置し、室町時代には道南十二館の一つ中野館があったほか、漁業・林業を中心に古くから和人が定住していました。さらに遠い昔の古代から人々が活発な生活を展開していた痕跡が、町内の至るところから確認されています。また、当館が所在する鶴岡地区は明治中期に山形県鶴岡市から旧庄内藩士族が移住した土地で、その開拓には幾多の困難が伴いました。

各展示室では彼らが使用した開墾農具をはじめ、大昔からごく近年におけるそれぞれの道具、人々の日常生活や出来事、風俗、当町沖で座礁した幕府海軍艦「咸臨丸」の紹介コーナーがあります。

今後も各展示室の資料増設や鉄道関連資料、過去に統合された小学校の展示整備を進める予定です。

当館は地理的条件が悪く、地味で素朴ですが、多くの人々が残し伝えた道具や記録を公開する「地域の記憶装置」として、今とこれからを考えるきっかけになることを願いに込めています。

開館時間/9時~16時 入館料無料  
毎週月曜休館 TEL/01392-2-4366



咸臨丸と推定されるイカリ

(木古内町教育委員会 学芸員 木元 豊)

道北地区 NEWS

## アイヌ文化ふれあいまつりを開催

9月20日にアイヌ文化ふれあいまつりが開催されました。このイベントは、日程・場所ともに、毎年9月の連休に行われる旭川の食のイベント「食べマルシェ」に合わせて開催しており、より多くの市民や観光客の方にアイヌ文化へ触れてもらうことで、アイヌ文化に対する理解の促進と、アイヌ文化の振興を図ることを目的としています。今年で5回目の開催となりました。

会場にはいくつかのコーナーを設けています。

旭川アイヌ協会の方々が制作した衣服や小物・木製品などの伝統工芸品を展示するコーナーでは、見るだけでなく、刺繍などを体験することもできます。これとは別に、来場者に短時間で制作体験してもらえるコーナーもあり、昨年はゴザ編みやアイヌ文様の切り絵を行いました。今年はアイヌ文様をモチーフにしたかざぐるま作りを準備しました。さらに試飲・試食ができる食のコーナーを設けています。ここではホオノミとナギナタコウジュを用いたお茶を提供するほか、昼にはポネサパルル(豚の骨のスープ)を提供します。一人一人に提供できる量は少ないのですが、毎年好評です。さらに今年はアイヌの伝統的な食料であるオオウ

バユリとサケについて紹介するパネルと、博物館の資料を展示するスペースも設けました。

イベントのメインとなるのは会場の中央に設営したステージで、MAREWREWによるライブや、旭川チカップニアイヌ民族文化保存会によるアイヌ古式舞踊が披露されます。また、保存会の方々に指導してもらいながら、来場者にムックル(口琴)に挑戦してもらう時間も設けています。

工芸・食・芸能と、いろいろな要素を集めたイベントとなっています。多くの方に足を止めてもらい、少しでもアイヌ文化に興味を持ってもらえれば幸いです。



伝統工芸品の展示

(旭川市博物館 学芸員 飯岡郁穂)

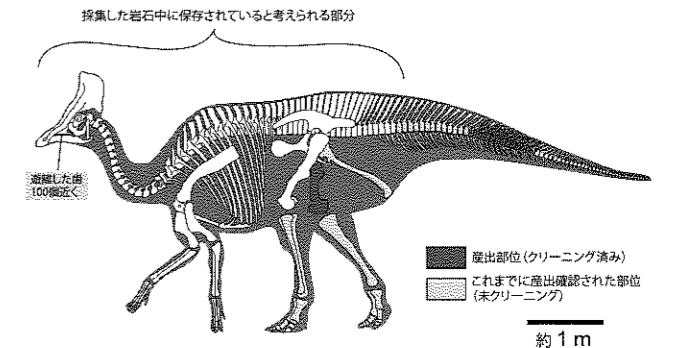
道南地区 NEWS

## むかわ町穂別での恐竜発見とまちづくり

むかわ町穂別博物館では、北海道大学と共同で2013年と2014年に白亜紀末約7,200万年前の恐竜化石の大規模な発掘を行いました。発掘を行ったのは、陸上に生息していた植物食恐竜ハドロサウルス科で、海に流され化石となった1標本です。発掘した恐竜の全長は8m、体重が7.2tと推定されています。2年間の発掘で採集された化石を含む岩石は約6tと膨大な量になり、現在は穂別博物館職員等と北海道大学総合博物館のボランティアによって、岩石から化石を取り出すクリーニング作業が進められています。骨化石のクリーニング作業には繊細な作業が求められることもあり、こぶし大の岩石でもクリーニングには1週間以上の時間がかかることもあります。こうした状況から、恐竜化石全体のクリーニング作業が終わるのは4~5年後になるだろうと考えられています。

発掘された恐竜は全身骨格が保存されている可能性が高いこと、大型であること、新属や新種といった新しい種類の可能性もあることから、国内屈指の恐竜化石だと考えられ、その調査・研究は世界的にも注目されています。

むかわ町穂別地区(旧穂別町)は、1977年に恐竜と同時代に生息していた首長竜化石(ホベツアラキリュウ)が発掘され、これを保存・展示するために、穂別博物館(当時 穂別町立博物館)を建設するなど首長竜・化石を中心としたまちづくりを進めてきました。穂別博物館では、継続して地元産の化石の収集・調査を進めた結果、今回紹介した恐竜化石の発見につながりました。そして、この恐竜化石が脚光を浴びたことによって、むかわ町で再び化石を用いたまちづくりが進められつつあります。



むかわ町穂別産恐竜化石のうち2014年までに発見された部分(骨格図は近縁のオロロティタン)

(むかわ町穂別博物館 学芸員 西村智弘)



### 巡回展『道東の博物館園が選ぶ イチオシの資料・風景』のご案内

道東3管内博物館施設等連絡協議会では『道東の博物館園が選ぶ イチオシの資料・風景』と題して、道東の博物館園各館が“イチオシ”の資料と風景を紹介する巡回展を10月より実施します。この巡回展は道東地域の博物館12館を巡回し、地域の方々に自分たちの暮らす、道東の歴史や自然に興味・関心を持って頂き、知らなかった“道東”を知ってもらい、道東各地の博物館園に足を運んでもらうきっかけになるように企画しました。

普段から地域のフィールドをくまなく歩き、調査研究を行っている学芸員が紹介するイチオシ・風景は必見です。例えば私、根室市歴史と自然の資料館・外山の紹介するイチオシ風景は『エゾシカが渡り、オオワシが舞う冬の風蓮湖』です。真冬の風蓮湖の美しい写真とともに、エゾシカが雪の少ない根室地域を越冬場所を選んでいたり、冬の風蓮湖にオオワシが集まってくるのは、凍った湖に穴をあけ、網を入れ、魚を獲る“氷下待ち網漁”のおこぼれにありつくためである事など、その風景の中に暮らす動物たちの生態や人との関わりについて解説しています。このように、単に美しい

壮大だというのではなく、そのバックグラウンドを知ること、道東の自然、歴史、文化の素晴らしさ、面白さを学ぶ事が出来る、そんな風景が厳選されています。もちろん、“イチオシ資料”に関しても各博物館が持つ、その館にしかない貴重な資料やその地域を象徴するような資料が学芸員のわかりやすい解説とともに紹介されています。巡回する館園、日程等に関しては <http://www.hk-curators.jp/archives/2406> を参照ください。お近くの方は巡回展に足を運んで頂き、今まで知らなかった“道東”を発見していただければと思います。



(根室市歴史と自然の資料館 学芸員 外山雅大)



### オホーツク文化期の 解明を進める調査実施中！

斜里市街地からウトロ方向へ車で40分ほど走ると、亀のような形をした岬が姿を現します。斜里に暮らす人々は「カメ岩」と呼び親しんでいます。実はこのチャシコツ崎(岬)は、良好な港(ペレケ湾)へ入るためのランドマークとして古くから多くの人々に利用されてきた場所です。それを物語るように、岬頂上から岬下の海岸付近までの空間域に人々の生活痕跡を見ることが出来ます。これまでの調査から、主に縄文時代とオホーツク文化の時期に利用されていたことが明らかになっています。

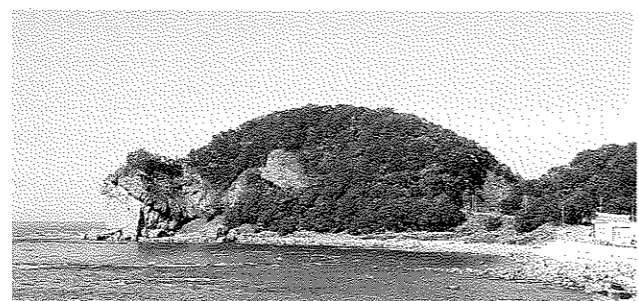
この岬は地層面の観察等から地滑りによって形成された地形であると考えられています。標高50m以上の岬上には、オホーツク文化期のものと思われる竪穴住居跡31基がほぼ手付かずの状態に残されています。なぜ水も無く、生活しづらい地形上に集落を築いたのでしょか。

斜里町は、この集落跡の成因と遺跡に対する適切な評価を与えるために、平成25年度から学術調査を継続しています。今年度は、昨年引き続き崩落の危機に瀕した竪穴住居跡1棟の発掘調査を実施してい

ます。崖に面した場所での調査のため、安全対策を第一に考え作業にあたっています。

昨年の調査では竪穴住居の中層まで掘り進み、配石とも推察できる遺構のほか、珍しい土器も発見されました。その土器は細い粘土紐を幾重にも貼付け、側面には把手を付け、底と口の一部が穿たれていました。ビールジョッキのような形状ですが、内部にはヒグマの指骨など、獣骨が多く含まれていました。いったい何に使ったのでしょうか。

9月から調査が開始され下層へと掘り進めています。焼失家屋の痕跡が現れる中、「骨塚」らしき焼骨群も検出され始めました。この遺跡の成因が解明され、知床半島に生きたオホーツクの人々の文化が明らかとなることを期待し、この後の調査に挑みます。



チャシコツ岬全景

(斜里町立知床博物館 学芸員 平河内 毅)



### 千歳水族館 リニューアルオープン

1994年9月にオープンした「千歳サケのふるさと館」はおよそ8ヶ月の工事休館を経て、2015年7月25日、館名も新たに「サケのふるさと千歳水族館」としてリニューアルオープンいたしました。

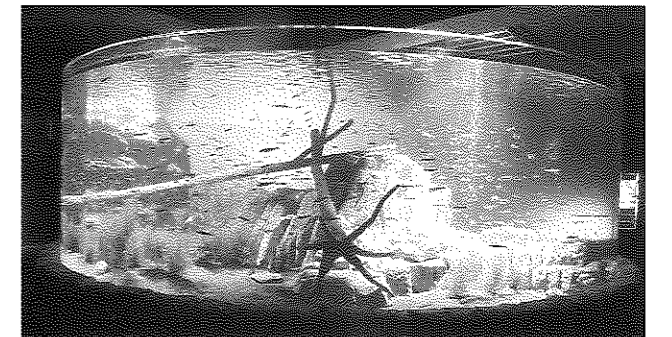
オープン時には、前日の22時過ぎから並んで下さった高知県の方を先頭に、開館前から300人を超える列ができ、開館後もその列は短くなるどころか徐々に長さを増し、1,000人分ご用意したオープン記念の品も、ものの1時間で品切れとなってしまう盛況ぶりでした。

今回のリニューアルでは、「サケと千歳川をシンボルとした淡水生物の水族館」という展示コンセプトそのままに、リニューアルテーマとして新たに「清流と緑の癒やし空間」を設定しました。その象徴ともいえる水槽が、本リニューアルの目玉ともなっている支笏湖大水槽です。

導入部に「苔の洞門」のジオラマを製作し、洞門を抜けた先に「支笏湖ブルー」とも称される水の碧さを再現した総水量約80トン、直径7.2mの円筒型をした支笏湖大水槽が現れます。支笏湖の水中景観を再

現したこの水槽では、柱状節理や巨大な倒木を配し、清流の象徴ともいえるバイカモなど水草の緑の間を、銀鱗をきらめかせヒメマスが泳ぎます。「色が無い」と揶揄される日本産淡水魚の水槽に、思わず見入ってしまうような色彩を表現できたのでは無いかと思っています。

他にも、モナコ水族館でも使用している、全面透明アクリルでできた長さ約5mのヒョウタン型新タッチプールや、ミニチュアのインディアン水車が回る流水水槽。世界の淡水魚コーナー、千歳を中心にサケと人との関わりを紹介する「なるほど!?サーモンルーム」など新たな展示が一杯です。これからまだサケの季節が続きます。皆様のご来館を、お待ちしております。



支笏湖ブルーが美しい新設の大水槽

(サケのふるさと千歳水族館 館長 菊池基弘)



### コラムリレー第三弾『学芸員が伝えたい 地域の遺産』が始まりました

ただいま、学芸員部会のホームページ「集まれ！北海道の学芸員」では、同じテーマに基づいて毎週1回学芸員がリレー形式でコラムを投稿していく「コラムリレー」の第三弾が連載中です。振り返れば、2013年3月から始まった第一弾のテーマは「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」で全52回、2014年4月から始まった第二弾のテーマは「学芸員お勧め！秘蔵品のモノ語り」で全46回のコラムが投稿され、北海道内のさまざまなモノが紹介されました。

第三弾となる今回のテーマは「学芸員が伝えたい地域の遺産」で、8月からスタートしました。多くの物語が伝えられている場所や、辿り着くのが大変だけど絶景がみえる秘境的な場所、かつては多くの人が住み栄えたが主産業の衰退で消滅してしまった場所や、はたまた地域に受け継がれてきた伝統芸能といったようなコラムが投稿されていくと思います。というのも、今回「遺産」という定義を厳密に決めていません。どう捉えるかは執筆者次第ですので、色々な切り口のコラムが投稿されると思います。お楽しみに。

このコラムリレーでは、第二弾から制限を設けてい

ます。第二弾は「文字数は1000字以内、写真は1枚のみ」でしたが、第三弾は、「紹介するサイトは1カ所、文字数1500字以内で、ある調、写真は最低1枚で複数枚OK」というルールです。これは多くの人に読んでもらうためであるとともに、その制限の中でいかにわかりやすく伝えるかという、学芸員にとって重要なスキルを磨くことを目的としています。

コラムリレーは、学芸員部会のホームページ (<http://www.hk-curators.jp>) のトップページ上部にある「コラムリレー」から、現在連載中のコラムもバックナンバーも読むことができます。参加者が自然・歴史・産業・文化等の遺産を通じて、地域の魅力を発信しておりますので、ご覧ください。

また、学芸員部会の会員も募集中です。現在、174名の会員が情報交換や学び合いなどの交流を深めています。コラムリレーを投稿したい方も、まずは会員登録から。年会費1,000円で参加できますので、皆様のご加入をお待ちしております。

(八雲町郷土資料館 学芸員 大谷茂之)



### 遊学館10周年の夏

釧路市子ども遊学館(以下、遊学館)は、今年7月で開館10周年を迎えました。この1年間は、これまで利用して下さった皆様への感謝をこめて、多様な記念イベントを開催しています。今夏は「海」をテーマにした2つのイベント、「海洋地球研究船『みらい』一般公開」と夏休みイベント「すすめ！うみたん～みんなと海の大探検～」を開催しました。

「みらい」は、国立研究開発法人海洋研究開発機構(以下、JAMSTEC)が所有する世界最大級の研究船です。7月18日の公開日はあいにくの曇天でしたが、2000人もの来場があり、多くの方に海洋研究の最前線を楽しんでいただきました。

その翌週から始まった「すすめ！うみたん～みんなと海の大探検～」は、JAMSTECの協力のもと、釧路の海や深海底を探検気分体験することができるイベントとなりました。水圧実験器を用いたサイエンスショーは子どもだけでなく大人にも大きな反響があり、土・日曜日1回のみの実施予定でしたが、毎日2回の開催に急遽変更しました。また、深海特別展示においては、当館職員によるガイドツアーを1日3回実施し、

来場者との対話を通じた学びの場を提供することができました。

このような大がかりなイベントを実施することは、地域の博物館単独では難しいのが現状です。当館も改めて痛感しました。地域内外の機関とどのようにつながって連携していくかは、日々考えていかなければならない課題の1つです。その解決策の1つとして、他の機関とつながりのある博物館が、地域の博物館群の中で「ハブ」となって機能することで、地域の博物館が展示や人材といった面での充実を図り、様々な場所でよりダイナミックな活動が実現でき、さらには地域活性化にもつながっていくと考えています。



海のふしぎに誘うガイドツアー

(釧路市子ども遊学館 学芸員 島田 拓)



### 「木と生きるーアイヌのくらしと木の造形」展から

北海道立旭川美術館では平成27年11月19日(木)～平成28年1月24日(日)まで「木と生きるーアイヌのくらしと木の造形」展を開催。人間市博物館と当館の2会場巡回展で、8月末に人間で開幕しました。特色は「木」という素材に焦点をあてた作品ラインナップ。旭川は大雪山系の豊かな森林資源を背景に木工の盛んな土地で、当館コレクションの柱も「木の造形」。アイヌもまた、古来、木もまたカムイ(神)として、木を使う技と世界観を受け継いできました。祭具や生活用具、衣装など、ずらりと並ぶ工芸品約447点に、改めて木をめぐる技の数々彫る、削る、削る、曲げる、編む、織るなどーの多彩さを実感。道内はもとより国立民族学博物館や天理図書館など全国の所蔵機関からよりすぐった工芸品の高度な技と美しさを堪能できます。なかでも圧巻なのは、177点が一堂に展示されるイクパスイ。神や先祖にお神酒を捧げるときに用いる儀礼具で、アイヌの祈り言葉は、イクパスイによってカムイに伝えられるといい、その表面には熊や小鳥、ヘビなどの多種多様な彫刻が施され、真摯な祈りに根ざしたゆたかな造形力がうかがえます。伝統的

に絵を描かなかったといわれるアイヌの造形のうち、具象的モチーフから抽象的文様までもっとも多彩な表現のバリエーションが見られるのが、このイクパスイといえるでしょう。さらに会場では、「北海道観光とアイヌ工芸」に焦点をあて、昭和30年頃からの北海道観光ブームと北海道イメージ形成のなかで人気を博した熊の木彫りやアイヌをモチーフとした懐かしのお土産品も展示されます。



イクパスイ(部分) 市立函館博物館蔵

(北海道立旭川美術館 学芸課長 土岐美由紀)

### 館・園の主な展覧会と普及事業

(平成27年11月～平成28年3月の行事予定)

#### 石狩

##### ●いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)

- 開催中～12/13 テーマ展「石で作った縄文文化の道具たちー石狩紅葉山49号遺跡から出土した石器ー」
- 12/5 石狩紅葉山49号遺跡から縄文世界遺産へのメッセージ
- 12/19 フライドチキン骨格標本をつくる
- 12月末～3月 テーマ展「資料館のお宝2016」
- 1月予定 石狩大学博物館学術部講座
- 2月予定 石狩ビーチコーマーズ/冬の海辺の漂着物

##### ●北海道開拓の村(011-898-2692)

- 11/7,8 わら細工講習会 そりづくり
- 11/14 わら細工講習会 わらじづくり
- 12/20 年中行事 冬至～かぼちゃ粥の提供～冬・むら・ロマン
- 12/23 ～むらのもちつき&クリスマス～
- 1/9～3月中旬 冬の生活体験
- 1/31 年中行事 七草粥の提供
- 2/20～3/3 年中行事 ひなまつり～折りびなづくり、甘酒・ひなあられの提供～

##### ●札幌市青少年科学館(011-892-5001)

- 10/31・11/1 プラネタリウムさよなら祭り
- 11月～2月の日・祝 日曜実験「静かな強いエレキテル?」
- 11/13～15 札幌市天文台夜間公開
- 11/14 宇宙セミナー「宇宙で生活するには」
- 11/21 科学館天体観望会
- 11/21～23 ちびっこワークショップスペシャル～家族でサイエンス～
- 11/29 ヒグマの科学
- 12/9 土曜工作会
- 「光ファイバーツリーを作ろう(仮)」
- 「ギガワンドフル!自由研究ラボ」

##### ●北海道立文学館(011-511-7655)

- 11/3,5 ロビーコンサート
- 11/7 わくわくこどもランド
- 「秋のスペシャル～人形劇」
- 11/28～1/17 ファミリー文学館「ネコ!ねこ!猫!!」
- 12/13 わくわくこどもランド
- 「手作り教室:ツリーをつくらう!」
- 1/10 わくわくこどもランド
- 「手作り教室:カルタをつくらう!」
- 1/30～3/27 特別展「さとぼろ」発見 大正 昭和・札幌 芸術雑誌にかけた夢
- 2/6 わくわくこどもランド
- 「絵本の読み聞かせなど」

- 2/9～3/27 常設展アーカイブ「江原光太と砂澤ピッキー北の詩的精神」
- 3/5 わくわくこどもランド
- 「春のスペシャル～腹話術など」

##### ●北海道大学総合博物館(011-706-2658)

- 10/15～11/5 プレ小展示「ランの王国」
- 11/14 土曜市民セミナー「地球深部にひそむ隕石をさぐる」
- 12/5,6 パラタクソノミスト養成講座 鉱床(初級)
- 12/12 土曜市民セミナー「恐竜の鳥類化～脳・内臓・翼の進化～」
- 1/11 パイオメティクス市民セミナー「人間とフジツボ」
- 1/23,24 パラタクソノミスト養成講座 昆虫(上級)
- 1/30 パラタクソノミスト養成講座 岩石(初級)
- 2/13 土曜市民セミナー「北海道大学総合博物館所蔵:昆虫標本について」
- 3/19 土曜市民セミナー「記憶の中の科学館ー50年前から紡がれる科学館体験ー」

#### 渡島

##### ●北海道立函館美術館(0138-56-6311)

- 開催中～11/8 常設展「ミュージアム・コレクション夏秋 百花繚乱/筆勢の世界」
- 開催中～11/8 特別展「草月流秘蔵コレクション展 勅使河原蒼風の眼と美の潮流」
- 11/14,1/23 アーティスト・トーク
- 11/14～1/24 特別展「瀬戸英樹展」
- 11/14～1/24 常設展「ミュージアム・コレクション秋冬 道南の風景/書にみる風景」
- 1/30～4月上旬 拡大常設展
- 「ミュージアム・コレクション・スペシャル 文字と記号の織りなす世界」
- 1/9 マジカル・ワークショップ
- 「人形劇にチャレンジ(仮)」

##### ●市立函館博物館(0138-23-5480)

- 12/13 学芸員こぼれ話
- 「日魯漁業の樺太先住民族研究者」
- 1/16 わくわく科学教室
- 「もしも原子が見えたなら」

#### 後志

##### ●岩内町郷土館(0135-62-8020)

- 開催中～11/23 町制施行115年特別企画展
- 「初代町長 梅沢市太郎」

##### ●小樽市総合博物館(0134-33-2523)

- 10/10～11/29 企画展「商人たちの小樽」

10/10~12/28 運河館トピック展  
「北大教授が収集したピンたち」  
11/3 ミュージアムラウンジ  
「小樽の商人たちの印」

●北一ヴェネツィア美術館(0134-33-1717)

開催中~12/7 生まれ変わった名画  
~ゴッホ・ガラスモザイク絵画展  
12/8~2/22 ルチオ・ブバッコ 幻想の世界展

上川

●旭川市博物館(0166-69-2004)

11/3 博物館無料開放! アイヌ文化に親しむ日  
11/3~1/17 第76回企画展「風雪の90年・旭川の100人~江上コレクション」

●北海道立旭川美術館(0166-25-2577)

11/19~1/24 木と生きる-アイヌのくらしと木の造形-  
1月中旬 ウッディ★工作アトリエ  
2/28~3/31 さわって みて 美術をまるごと楽しもう!

●士別市立博物館(0166-22-3320)

11/8~11/29 特別企画展「日本版画協会巡回展」  
11/28 亜麻とイラクサでコースターづくり②  
12/19 クリスマスレクチャー  
12/27~1/31 特別企画展「士別の無形文化財~日向神代神楽展」  
1/9 士別サイエンスフェスティバル  
1/30 米づくり体験⑥昔の手仕事  
2/13 夜間開館「雪あかりミュージアム」  
2/14~3/6 テーマ展「桃の節句~ひな人形展」  
2/27 冬の自然観察会

胆振

●苫小牧市美術博物館(0144-35-2550)

開催中~11/29 花ひらく近代洋画の世界  
11/7 美術講座「昭和の美術と苫小牧」  
12/12 美術博物館大学講座「アイヌの鹿笛について ~音楽の起源を探る~」  
12/12 博物クラブ  
「ミクロの化石を観察しよう」  
12/12~1/31 NITTAN ART FILE: インスピレーション  
2/13~3/13 ハスカップ-原野の恵みと描かれた風景  
2/13~3/13 タマサイ-つながりの美  
2/20 美術博物館大学講座  
「ハスカップの多様性と育種について」  
2/27 企画展記念講演会「タマサイ展」

●室蘭市民俗資料館(0143-59-4922)

11/15 とんてん館寺子屋教室「干支凧づくり」

12/13 とんてん館寺子屋教室「しめ縄づくり」  
12/20 とんてん館寺子屋教室「石臼によるもちつき」

網走

●紋別市立博物館(0158-23-4236)

11/14 番屋講座「ぶんぶんぜみを作ろう!」  
11/14~29 北海道写真協会紋別支部写真展  
12/5 博物館そばづくり体験講座  
12/12 番屋講座「昔の遊びを皆で体験しよう!」  
1/14 子ども考古学体験「勾玉作り体験」  
1/23~2/21 企画展「村瀬真治絵画展」  
2/13 番屋講座「お雛さまを作ろう!」  
3/12 番屋講座「昔なつかし街頭紙芝居と飴細工」  
3/12~3/27 特別展「第12回博物館サークル活動合同作品展」

●北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)

11/10~11/29 北の人びとと動物たち  
11/21 寒いところにいるコウモリの世界  
12/4~1/6 山本睦子がつくる北欧フィンランド伝統のクリスマス飾り Himmeli 作品集  
12/19 トナカイ牧民の持ち物あれこれ  
1/9~1/24 オホーツクシリーズ⑨ 北の状景から北方民族の動物利用  
1/30 雪と氷と北方民族  
2/6~4/3 雪と氷の神秘  
2/20 遺跡は何故できるのか

●博物館網走監獄(0152-45-2411)

開催中~3/30 『北海道集治監展』  
11/1 秋の自然体験講座 落ち葉でアート  
12/6 クリスマス行事 スノーマンアロマオイル飾り  
12/27 正月準備 しめなわ縄作り  
1/7 年中行事 七草と絵馬作り  
1/7 冬休み体験講座 羽子板と独楽作り  
1/11 年中行事 鏡開き  
2/3 年中行事 節分  
3/3 春休み体験講座 桜の絞り染めに挑戦

●美幌博物館(0152-72-2160)

11/7~11/23 企画展「交通安全ポスター作文展」  
11/14 講演会「身近な友達 寄生虫」  
12/6~1/17 企画展「寄贈美術資料展」  
12/10,17 プチ工房「香る! モザイクキャンドル」  
1/8,9 モノ作り講座  
「ジェルキャンドルをつくらう」  
1/23 講演会「エゾシカが教えてくれる人と自然の関係」  
2/6~3/6 企画展「冬季作品展」  
2/20 講演会「アイヌ文化と自然」  
3/19~5/29 企画展「家族のじかん」